

ビロードノリウツギ *Hydrangea paniculata* Siebold var. *velutina* Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 13。分布域の狭い、本県に固有の変種である。

【形態】

落葉性の小高木あるいは低木。高さ 4m に達する。樹皮は灰白色で、不規則に裂けてはがれる。葉は対生または 3 輪生、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 5~15cm、幅 3~8cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび形または円形、辺縁には内曲した鋭鋸歯があり、両面に短毛を密生する。花期は 8~9 月、花序は円錐状で枝先に頂生し、長さ 8~30cm に達する。装飾花のがく片は通常 4 枚、長楕円形~円形、長さ 1~2cm、白色で果時には淡紅色か淡緑色に変わる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 38772, 1992-8-16)、7 設楽東部 (小林 53586, 1994-9-10)、8 鳳来北東部 (芹沢 83356, 2008-9-20)。

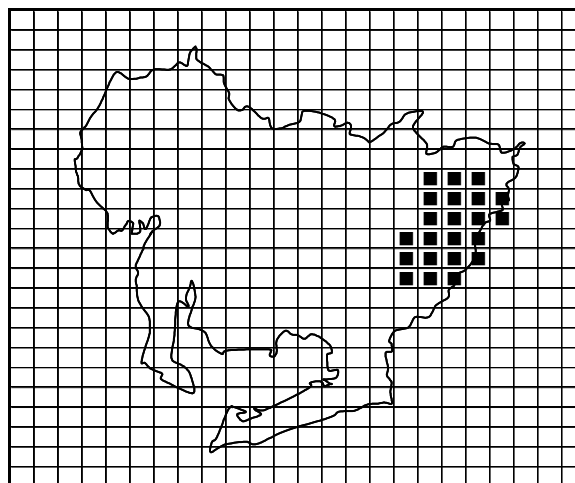
【国内の分布】

本州 (愛知県東三河の一部)。本県に固有の植物で、狭い範囲だけに分布している。

【世界の分布】

日本固有変種。種としては千島列島南部から中国大陸まで分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いや尾根などの岩崖地に生育する。自然地形の場所だけでなく、林道のわきなどにも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

分布範囲は狭いが、その中では点在している。しかし、大きな群落はない。林道わきに生育しているものは、改修などの際に失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

陽性の低木なので、個体群の維持には適度の攪乱が必要である。林道の改修等が行われる場合、法面に岩肌が残されればそのうちに再度生育すると思われるが、コンクリートで固められれば復活は不可能である。工事に際し、配慮が必要である。

【特記事項】

形態的には基準変種のノリウツギから葉に密毛がある点で異なるだけであるが、分布域が限定されており、開花期が 1 ヶ月程度遅い。品種 form. *velutina* (Nakai) H. Ohba et Akiyama と見なす見解もあるが、もっとはっきりした分類群である。

【関連文献】

保木 II p.120, 平木 I p.168, 平新版 4 p.164, SOS 旧版 p.56+図版 7, SOS 新版 p.46,48.